＜新聞記事から考えよう＞180805-06

「広島原爆の日」

あす広島原爆の日

平和式典、85カ国参加

広島は6日、原爆投下から73年の「原爆の日」を迎える。広島市中区の平和記念公園で営まれる「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」（平和記念式典）には米国から駐日大使が3年ぶりに参列するほか、英仏ロの核保有国など85カ国と欧州連合（EU）の代表が参加する見通し。

松井一実市長は平和宣言で、日本政府へ「憲法の平和主義を体現するためにも、国際社会が核なき世界へ向けた対話と協調を進めるよう、役割を果たしてほしい」と訴える。

一方で核保有国には核拡散防止条約（NPT）が義務付ける核軍縮の誠実な履行を要求。朝鮮半島の緊張緩和の進展に期待感を示し、「ヒロシマを継続して語り伝えなければ」と訴える。

式典は午前8時に開始。国連のグテレス事務総長の代理として軍縮担当上級代表の中満泉事務次長も出席する。

被爆者健康手帳を持つ全国の被爆者は、2018年3月末時点で15万4859人、平均年齢は82・06歳となった。

原爆ドームの前でスズメに餌をやる「スズメおじさん」＝広島市

「餌やりは恩返しのつもり」

原爆孤児のスズメおじさん

女性歌手が思いや平和訴え

広島市の平和記念公園に、毎日スズメへ餌をやる「スズメおじさん」と呼ばれる83歳の男性がいる。10歳で被爆し、両親を亡くした原爆孤児だ。過去を話したがらぬおじさんの心を5年かけて開き、シンガー・ソングライターの山本晴美さん（55）＝山梨県身延町＝が餌やりの裏に隠れた思いと平和の尊さを訴えている。

おじさんは原爆ドームを望むベンチでスナックパンをあげている。「これはボス。そっちは親子よ」。始めたのは約10年前。今では手に乗るほどに懐き、顔や性格の違いも全部分かると話す。

原爆が落ちた時は広島市郊外にあるはずの記憶を聞きたかった。花農家だった」と振り返る。

食料が乏しかった被爆後、生きるためにスズメを食べた。大人に交じって捕まえるのを手伝うと分け前をもらえた。木に網を仕掛け、捕ったスズメの首を指で一つずつ絞めた。おじさんは「餌をやるのは恩返しのつもりなんよ」とつぶやいた。

原爆ドームに来るのは「この辺りは僕にとって仏壇みたいなもん」だから。姉の嫁ぎ先が近く、平和公園の一角には身元不明の遺骨約7万柱を納めた原爆供養塔もある。母も眠っているはず、といつも手を合わせている。

「原爆孤児には戦中より悲惨な戦後があった」と山本さん。今年1月におじさんの話を基にした物語が完成し、国内各地で披露している。山本さんは「（戦争による幼少期の）罪悪感に今も苦しむおじさんのような人はいっぱいいるはず。それを忘れちゃいけない」と語った。

（佐賀新聞　2018.8.5 付）

きょう広島原爆の日

被爆73年　核廃絶訴え続け

広島は6日、原爆投下から73年の「原爆の日」を迎える。広島市中区の平和記念公園では午前8時から「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」（平和記念式典）が営まれる。

松井一実市長は平和宣言で、核保有国に核拡散防止条約（NPT）が義務付ける核軍縮の誠実な履行を要求した上で、国際社会に核兵器禁止条約を核廃絶への「一里塚」にするよう求める。

宣言は朝鮮半島の緊張緩和の進展に期待し、自国第一主義の台頭や核兵器の近代化など世界の現状を「冷戦期の緊張関係の再現」と懸念を表明。歴史を忘れた時に人類は再び重大な過ちを犯すとして、「ヒロシマを継続して語り伝えなければ」と主張する。

式典ではこの1年間に亡くなったり、死亡が確認されたりした5393人の名前が書かれた原爆死没者名簿を原爆慰霊碑の石室に納める。これまでに記帳された被爆死没者の総数は計31万4118人となった。

国連のグテレス事務総長の代理で出席する軍縮担当上級代表の中満泉事務次長は5日、市役所で松井市長と面会。中満氏は核兵器禁止条約を巡り国際社会で対立が生じていることに触れ「国連は溝を埋める努力をする必要がある」と述べた。

被爆者健康手帳を持つ全国の被爆者は今年3月末時点で15万4859人、平均年齢は82・06歳となった。

広島市の平和記念公園で「原爆の子の像」の鐘を鳴らす高校生＝5日午後

（佐賀新聞　2018.8.6付）

◎記事から読み取ろう

この１年間に亡くなったり、死亡が確認されたりした人は　　人

記帳された被爆死没者は、　　人

被爆手帳を持つ全国の被爆者は、　　人　　平均年齢　　歳
（2018 年３月末現在）